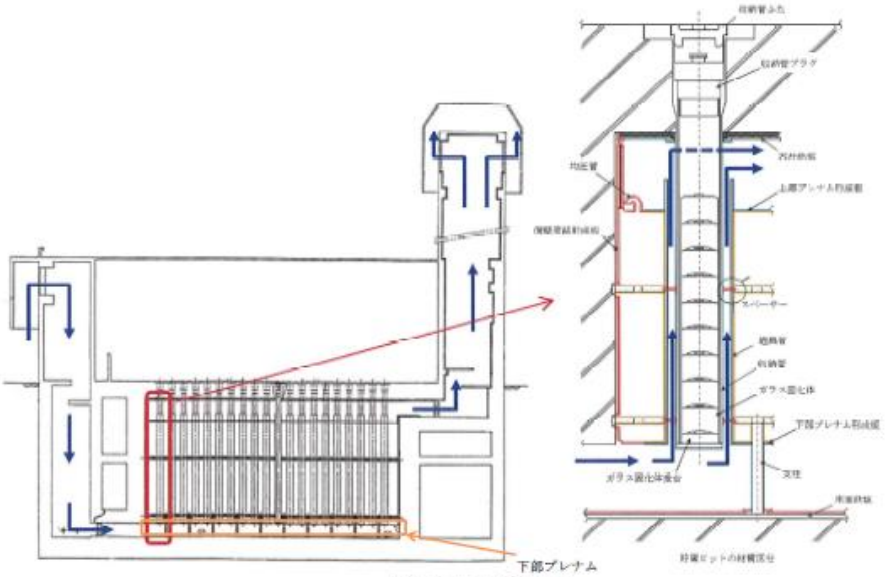
最近の気になる動き　42　（順番を抜かしていました）

▼▼高レベル廃棄物 「数十年後の未来」を恐怖に？▼▼

2015.9.2 規制委で、日本原燃（六ヶ所村）の廃棄物管理施設「ガラス固化体貯蔵建屋下部プレナム等における変色部や錆の発生について」報告されました。

高レベル放射性廃棄物のガラス固化体は、半減期数万年以上の超ウラン元素ＴＲＵを多く含み、同施設で３０～５０年冷却される予定のもの(その後最終処分)ですが、維持管理費を安くするため、収納管の中にガラス固化体を縦に積み重ねて収納し、固化体の発する熱でその外側を取り囲む通風管の空気が温められ、軽くなった空気が自然に上昇して上部から排気され、それに伴い通風管底部からは冷たい空気が引き込まれて冷却が続けられるという「自然循環方式」で冷却されています【右図３】。



参考図３　貯蔵区域の断面図

表１　ガラス固化体貯蔵建屋、ガラス固化体貯蔵建屋Ｂ棟における各貯蔵区域の竣工時期、貯蔵期間等

建屋	貯蔵区域	竣工時期	貯蔵期間	最大管理能力	貯蔵本数
ガラス固化体貯蔵建屋	第１貯蔵区域	1995 年 1 月	1995 年 10 月～2004 年 6 月	720 本	711 本
	第２貯蔵区域	1995 年 1 月	2004 年 3 月～2013 年 4 月	720 本	716 本
ガラス固化体貯蔵建屋Ｂ棟	第３貯蔵区域	2011 年 4 月	2013 年 4 月～	720 本	147 本
	第４貯蔵区域	2011 年 4 月	―	720 本	未収納

今年（2015）4 月に第１貯蔵区域（全量収納済み＝人の立入不可）の建物下部（下部プレナム）にある支柱基部に鉄さび（変色）が見つかり【右写真上】、さらに 2011 年に竣工したばかりの第４貯蔵区域（未収納で立入可能）でも支柱や通風管・収納管底部に変色＝さびが見つかり【右写真中】、また６月には見られなかった結露が（幸い）８月にはそれらや床面に観察されたとのこと【右写真下】。夏場の高温＝高湿度の外気が、地下にある下部プレナムの金属やコンクリート表面（夏場でも低温）で結露することは“当然”予測される事態ですが、吸気を地下手前でフィン（羽状の金属）に通すなどして除湿すると「結露水」の排水ポンプ＋水処理施設等が必要となり、施設を無

日本原燃株式会社廃棄物管理施設の下部プレナムの状況について

図１　第１貯蔵区域の支柱基部

図２　第１貯蔵区域の支柱基部

図３　第４貯蔵区域の支柱基部

図４　第４貯蔵区域の通風管

図５　第４貯蔵区域の床面（結露）

図６　第４貯蔵区域の通風管下部

人・無動力で（安上がりに！）運転する「設計思想」に反するため、そのような簡便な“さび防止策”すら講じなかったものと思われます。

1995年以来20年間結露環境が放置された第１貯蔵区域で（たぶん第２でも）さびが発生していたのは当然ですが、４月の点検は（おそらく福島原発事故を教訓に）2013.12から導入された定期評価に先立つ自主点検とのことですから、今回“たまたま見つかった”だけで、事故が無ければさびの進行がそのまま放置され（点検されないまま）、20～30年後（次世代以降）に突然支柱や管などが壊れてガラス固化体が破損・散乱（＝外部に放射性物質放出）という事態に至った可能性もあったのではないでしょうか。その意味では、事故による規制見直しが、災害の未然防止に貢献した形です。

放射性廃棄物（ゴミ）の処理・処分は特に安上がりに済ませようとする傾向が強いと思いますが、次世代以降に放射能のツケを回さないようにするために、人の目の届かないところで数十～数百年（あるいは数万年？）も手間をかけずに管理・処分（＝埋め捨て）するという「設計思想」の甘さ（安全神話）を、全面的に見直す必要があると思います。

＜2015.12.20 記＞

（仙台原子力問題研究グループＩ）

【女川原発アラカルト】

【11月】

25日（水）　「第135回女川原子力発電所環境保全監視協議会」（仙台KKRホテル2階蔵王）。2名傍聴。

26日（木）　東北電力、新仙台火力発電所3号系列2基（各49万ｷﾛﾜｯﾄ）のうちの1基が12月1日に営業運転を開始すると発表。液化天然ガス（ＬＮＧ）が燃料のコンバインドサイクル方式で、熱効率は世界最高水準の60％超。

日本製紙と三菱商事が共同出資した「日本製紙石巻エネルギーセンター」、「石巻雲雀野発電所」起工式。12月1日工事着手し2018年3月稼働予定。総工費300億円、出力14万9000ｷﾛﾜｯﾄ、石炭＋木質バイオマスの火力発電施設で、日本製紙グループでは国内3カ所目。

28日（土）　原発ゼロをめざす塩釜地域連絡会総会・学習会、多賀城市民活動サポートセンター。「自然エネルギーー考え方と事業展開」と題して水戸部秀利氏（NPOきらきら発電・市民共同発電所理事長）が講演。総会では、塩竈の「きん発デモ」が113回になり、学習会やニュース発行の継続で活動の定着を報告。

29日（日）　宮城県保険医協会第2回公開市民講座「事故から４年半、汚染地図から見えてきたこと、食品のこと、甲状腺がんのこと」、講師木村真三さん（放射線衛生学者）、フォレスト仙台第7会議室。

放射能問題支援対策室いずみ「第21回甲状腺エコー検査」in 大河原町（大河原町「世代交流いきいきプラザ」）。主催大河原町放射能問題連絡協議会、後援大河原町。検診医寺澤政彦医師（てらさわ小児科）。

【12月】

3日（木）　女性ネットみやぎ、一番町仙台フォーラス前で街頭宣伝と「女川原発再稼働STOP署名」行動。

4日（金）　涌谷町、30ｷﾛ圏内814人を、30ｷﾛ圏外の町内公共施設に避難させる広域避難計画を公表。

6日（日）　放射能問題支援対策室いずみ「第22回甲状腺エコー検査」（あいコープみやぎ　日の出町センター）、協力　生活協同組合あいコープみやぎ。検診対象者宮城野区・若林区にお住いの4，5才以上～22才以下の方（2011年3月11日の震災当時、18才以下の子ども）。検診医藤田操医師（福島県ひらた中央病院）、定員63名。

7日（月）　東北電力、女川町と石巻市の住民ら約4100戸に対し「こんにちは訪問」を開始。18日まで。

9日（水）　11.23シンポ実行委、後藤政志さんを囲む学習会「再度　女川原発の安全性を問う～格納容器の意味を考える～」、仙台市生涯学習支援センター会議室。24名参加。

10日（木）　東北電力、県・女川町・石巻市ならびに登米市・東松島市・涌谷町・美里町・南三陸町に11月分の女川原発の点検状況報告。

12日（土）　風の会・公開学習会　VOL.7「福島原発事故の『教訓』から、女川２号機『適合性審査資料』を斬る！」、講師仙台原子力問題研究グループ石川徳春さん、仙台市市民活動サポートセンター6Ｆセミナーホール。31名参加。

核戦争を防止する宮城医師・歯科医師の会公開企画『日本と原発』上映会、宮城県保険医協会研修ルーム。

放射能から子どもたちを守る栗原ネットワーク12月例会、栗原市市民活動支援センター。

13日（日）　福島の現状「原発事故は終わらない」武藤類子講演会、仙台弁護士会館。共催日本キリスト教団西仙台教会（教区宣教部委員会）、放射能問題支援対策室いずみ。約140名参加。

14日（月）　原発のない社会をめざして映画祭第2回映画祭「小さき声のカノンー選択する人々」上映＆鎌仲ひとみ監督トークショー、せんだいメディアテーク7階スタジオシアター。共催生活協同組合あいコープみやぎ（脱原発・エネルギーシフト委員会）、放射能問題支援対策室いずみ。

15日（火）　東北電力、女川原発3号機と東通原発で、中央制御室床下にあるケーブルの敷設に不備があったと発表。火災発生時の延焼防止のため、原子炉緊急停止用の「安全系」のケーブルと「非安全系」を不燃性の板で分離すべきところ、女川3号機では非安全系の通信ケーブル2本が分離板を貫通し、貫通部の防火処理も施されていなかった。

16日（水）　環境ジャーナリスト 村上敦氏講演会「ドイツが取り組むエネルギー自立社会への挑戦」、仙台市市民活動サポートセンターセミナーホール。主催エネシフみやぎ、共催宮城県中小企業家同友会地球環境委員会、協力生活協同組合あいコープみやぎ。約120名参加。

原子力規制委員会、女川原発2号機の新規制基準の適合性審査 66 回目会合を原子力規制庁で開催。海洋プレート内地震の評価で検討対象を拡大した結果を報告し、基準地震動の妥当性などを東北電力が補足説明。規制委側、「既往の最大地震の観測記録にこだわるのではなく、より広く不確かさを考慮すべき」と指摘。

県、補獲したイノシシから山元町浅生原上大沢で820 Bq/kg、山元町坂元鈴々入二で420 Bq/kg、亘理町愛宕前で110 Bq/kg、亘理町長瀞上大畑で120 Bq/kg、白石市白川津田で200 Bq/kg、白石市小倉下で230 Bq/kg、岩沼市志賀で110 Bq/kg、栗原市稲屋敷天王山で360、390 Bq/kgの放射性セシウムを検出したと発表。

18日（金）　「脱原発をめざす県議の会」（佐々木功悦会長）発足。会の目的は、①原発依存からの脱却を目指す②女川原発の再稼働に反対か慎重な対応を求める市民に同調する。みやぎ県民の声、共産党県議団、社民党県議団、無所属の会等県議20人。

20日（日）　第6回「市民による女川原発の安全性を問うシンポジウム実行委員会」。

放射能問題支援対策室いずみ「第23回甲状腺エコー検査」（放射能問題支援対策室いずみ「談話室」）。検診医大塚純一医師（おおつか小児科・アレルギー科クリニック院長）。

24日（木）　東北電力、女川原発1号機の275ｋＶ母線保護装置更新工事における所内電源連続停電事故の原因と対策を発表。

25日（金）　みやぎ原発損害賠償弁護団、仙台地裁ふるさと喪失訴訟で、新たに男女14人が東電と国に計5億9080万円の慰謝料などを求めて3次提訴。原告計93人、請求総額は計39億2460万円に。

【2016年1月】

4日（月）　農協・宮城県協議会、東京電力に、第52次分として7479万円の賠償金支払いを請求。（12月24日現在、第1～51次の請求総額は317億8071万円で、東電から支払われたのは298億5120万円で93.9%）

8日（金）　規制委適合性審査67回目会合。内陸側にある4つの断層群が連動しマグニチュード8.1の地震が起きても、敷地周辺の太平洋側の23.7㌔の断層や、仙台湾北部の43.1㌔の断層群が活動しても、揺れは基準地震動を下回ると東北電力が補足説明。

10日（日）　『海のはなし・山のはなし・旅のうた　よしだよしこLIVE　加美町』、中新田交流センターで開催。主催『海・山・旅』制作委員会。

13日（水）　県、補獲したイノシシから山元町大平館ノ内で510 Bq/kg、白石市斎川下久保で240 Bq/kgの放射性セシウムを検出したと発表。

14日（木）　放射能問題支援対策室いずみ、山崎知行医師（上岩出診療所、内科・皮膚科・小児科）による健康相談会～放射能に関係あるの？～、対策室いずみ「談話室」で開催。

15日（金）　東北電力、県・女川町・石巻市ならびに登米市・東松島市・涌谷町・美里町・南三陸町に 12 月分の女川原発の点検状況報告。

（空）

●脱原発みやぎ金曜デモ

【11 月】

29 日（日）　第 158 回「日曜デモ」は、勾当台公園野外音楽堂から 50 名の市民が参加。季節が秋から冬に移りゆく仙台の街で、元気に脱原発の声。

【12 月】

4 日（金）　第 159 回「金曜デモ」、時おり小雨の降る中、元気に脱原発をアピールし、元鍛治丁公園から 30 名の市民が参加。

11 日（金）　第 160 回「金曜デモ」、雨も小やみになり暖かな空気の中、元気に再稼働反対を訴えて、元鍛治丁公園から 35 名の市民が参加。

20 日（日）　第 161 回「日曜デモ」、元鍛治丁公園から 55 名の市民が参加。青葉区中央市民センターで大忘年会。

【2016 年 1 月】

8日（金）　第162回「金曜デモ」、ようやく冬らしくキリッと冷えた仙台市内を元気に、元鍛治丁公園から55名の市民が参加。

15日（金）　第163回「金曜デモ」、本格的な寒さが到来する中、元気に原発やめようと、勾当台公園野外音楽堂から50名の市民が参加。

◆（塩釜地域）塩釜脱原発デモ・毎週金曜17時半集合・下馬駅裏宮城民医連事業協前17時45分デモ出発

◆（旧古川地域）脱原発大崎demo金曜行動・毎週金曜17時半集合・あさひ中央公園

◆（仙台長町地域）第3水曜日脱原発ながまちアクション：仙台・長町・蛸薬師境内集合後デモ行進17時半

●指定廃棄物最終処分場をめぐる動き

【11 月】

24 日（火）　村井知事、定例記者会見で、環境省主催の市町村長会議に丸川大臣が出席しないことなどを含め、国の対応を批判。

25 日（水）　奥山恵美子仙台市長、環境省の対応を批判。

30 日（月）　猪股加美町長と井上環境副大臣、大槻憲四郎東北大名誉教授（地質学）と指定廃棄物処分等有識者会議委員の谷和夫東京海洋大教授（地盤工学）の専門家を交えた 2 回目の意見交換会を仙台市内で開催。議論は平行線。

【12 月】

1 日（火）　「女川原発の廃炉を求める大崎連絡会」（佐藤昭一代表）、伊藤康志大崎市長に、市町村長会議で県内 3 候補地の白紙撤回を表明するよう求める要望書と質問書を提出。

7 日（月）　「放射性廃棄物最終処分場建設に反対する県民連絡会」（高橋福継代表）ら 15 人、県庁で村井知事宛の要望書を提出。

高橋啓県議（元加美町総務課長）、県議会一般質問で村井知事と熱論。加美町民ら 40 人が傍聴。

8 日（火）　佐藤勇栗原市長、市議会 12 月定例会で「候補地返上と詳細調査拒否」を表明。

9 日（水）　自民党・県民会議（32 人）、政調会長会議で、指定廃問題の調査特別委員会設置などを求める野党会派の要求を「ゼロ回答」で押し切る。

13 日（日）　環境省主催の 8 回目の市町村長会議、仙台ガーデンパレスで開催（35 市町村中 33 出席）。佐藤栗原市長と浅野元大和町長、「候補地返上」を表明。猪股加美町長、白紙撤回を求めた上で、福島県飯館村の仮設焼却施設での集約処理を提案。井上信治環境副大臣、従来方針の堅持を繰り返した。

16 日（水）　佐藤栗原市長、定例記者会見で「特措法の見直し」の考えを示した。

21 日（月）　村井知事、定例記者会見で県主催の市町村会議開催は「再測定結果を踏まえた環境省の方針を聞いた上」と表明。

【2016 年 1 月】

16 日（土）　『河北新報』、政府が指定廃棄物処分場を断念し分散保管を継続する、と報道。（空）

『鳴り砂』2-080 号（通巻 259 号）別冊
2016 年 1 月 20 日
発行●みやぎ脱原発・風の会
〈連絡先〉〒980-0811
仙台市青葉区一番町 4－1－3
仙台市市民活動サポートセンター内
レターケース　No. 76
電話＆FAX　022－356－7092（須田）
http://miyagi-kazenokai.com/